

アシスト



自立活動の指導について

特別支援学校における自立活動は、児童生徒が学習や生活の基盤となる力を身に付けるための中心的な領域として位置付けられています。一人一人の実態に応じた指導が学校生活全体を通して、計画的に行われています。今回は小学生の自立活動の取組を紹介します。

自立活動とは （特別支援学校学習指導要領より）

【目標】

個々の児童又は生徒が自立を目指し、障害による学習上又は生活上の困難を主体的に改善・克服するために必要な知識、技能、態度及び習慣を養い、もって心身の調和的発達の基盤を培う。

【内容】

- | | | |
|---------|----------|-------------|
| 1 健康の保持 | 2 心理的な安定 | 3 人間関係の形成 |
| 4 環境の把握 | 5 身体の動き | 6 コミュニケーション |

小学生 B さんの事例

<B さんについて>

教師との関わりが中心で、体を動かして遊ぶことを好みますが、集団の中で学習する際には着席していることが難しくその場から離れようとしたり、感情的な言動をしたりすることがあります。

B さんがそのような言動をする場面を見てみると、「初めてのことに不安がある」「見通しがもてず、やることが分からない」などの実態が考えられました。

そこで、自立活動の指導目標を次のように考えました。

<自立活動の指導目標>

初めての活動や苦手な活動に対して、教師の提示する支援を受け、気持ちを切り替えて取り組もうとする

①	あさのじゅんぴ・きがえ	
②	やすみじかんおしまい	
③	あさのかい	
④	ゆっくりタイムおしまい	
⑤	こくご・さんすう	
⑥	ゆっくりタイムおしまい	
⑦	せいかつたんげん がくしゅう	

ぜんぶはなまる



おたのしみ！（すきなあそび、こうえん）



<具体的な指導例①>

気持ちを切り替えるための支援

- ・朝の活動の時間に、今日一日の流れを教師と一緒に確認する時間を設けました。

← 本児に合わせた目標を一緒に決め、短いスパンで振り返りをしています。「できた」という成功体験を積むためのツールです。

→活動のイラストや①、②・・・など活動の順番が視覚的に示されていることで、一日の流れが分かり「〇〇したら好きな遊び」など見通しをもって活動に向かう姿が見られました。また、できたことに花丸をしていくことで達成度や経過が分かりやすく、本人の頑張りを認める手段にもなりました。



＜具体的な指導例②＞

- ・やることが分からない場面でカードで視覚的に提示しました。

← カードの例（対象となる児童が「分かる」（文字、絵、写真など）方法で提示します）

→集団の場面から逸脱してしまったり、感情的な言動が見られたりした際は個別に教師とやり取りを行いました。その際に活動を端的に示すカードや約束のカードで視覚的に示すことで、やるべきことが分かって取り組める場面が増えました。

本校外部専門家の三二講義の紹介

このたび、本校職員を対象に言語聴覚士（ST）による「語彙の習得～内言語と発声言語の関係と支援～」と題した講義形式の職員研修会が行われましたので、内容を簡単に紹介します。

学習指導要領解説自立活動編では、「自立活動の個別の指導計画の作成や指導に当たっては、専門の医師及びその他の専門家との連携協力を図り、適切な指導ができるようにする（第7章自立活動の個別の指導計画の作成と内容の取り扱い）」とあります。

本校では自立活動の指導に生かすため、秋田大学及び福祉施設に所属する作業療法士（OT）、理学療法士（PT）、言語聴覚士（ST）の計3名に「外部専門家」として依頼し、専門的見地による授業参観と指導助言の機会を設けています。

内言語の音声言語への発達の流れ

生後～ 【前会話期前半】	様々な経験をする中で「規則性」を見付けていく。それがイメージとなり、言葉と組み合わせて「知識」となっていく（出来事知識）。（喃語→一語文）
1歳6か月～2歳6か月 【前会話期後半】	獲得してきた「出来事知識」を自分の身体を通して再現したものが知識になっていく。（二語文→単語の増加）
2歳6か月～7歳 【会話入門期前半】	急激に言葉が増える時期。自分でも説明するようになる。小集団であれば言葉でやりとりできる。
7歳～12歳 【会話入門期後半】	内言語を使って物事を考えるようになってくる。抽象的な思考も増える。

・言葉を話す（音声言語の獲得）には内言語（頭の中で言葉を使って考える力、理解している言葉）の発達が必要

1歳半頃の言語発達 音声言語：一般的に3語～10語程度（個人差が非常に大きい）

理解できる語：100～200語（話せる単語の約10倍以上ある）

2歳頃の言語発達 音声言語：200～300語程度、2語文の出現

理解できる語：200～300語以上→2歳から2歳半 400～500語

理解語彙はまだ個人差が大きい時期、環境による影響大（兄弟、保育園等の通園）

音声言語の獲得のために

- ・人や物への注目が育っているか
- ・音への反応が育っているか人に向けて音声を出すか
- ・認知は育っているか
- ・発声発語器官の運動発達に影響する疾患はないか
- ・咀嚼機能は十分に育っているか
- ・指さしはあるか
- ・発達ピラミッド（右図）の土台を整えることに関わる運動の発達はどうか



内言語は多いと考えられるが随意発声が未熟な子どもへの実践例（多弁多動な子どもにも有効）

- ・粗大運動及び微細運動（身体動作の未熟な面）を育てる運動や遊び

【具体例】引き起こし、リズムタッチ、棒またぎ、棒くぐり、棒よけ、飛行機ポーズ、動物体操（熊歩き）、頭部挙上（膝タッチ）

- ・手足の操作課題やビジョントレーニング（見る機能の練習）（口のコントロールにもつながる）
- ・身体のコントロールの育ちのタイミングで、発声模倣や口唇・舌の運動模倣（随意発声の定着練習）

【具体例】ビー玉つまみ（足）、タオル引き寄せ（足）、うがい・鼻呼吸・ティッシュ拭き
口の体操…実態に応じて「あーいーうーべー」や「あ・い・う・べ」

公開研究会を開催します

今年度の公開研究会は次の期日を予定しています。たくさんの御参加をお待ちしています。
詳細及び参加申込等につきましては、二次案内にて御確認ください。

日時：11月27日（金）9：00～16：00

提示授業

小学部：4年生 生活単元学習

中学部：2年生 生活単元学習

高等部：3年生職業Aグループ 職業科

講演

弘前大学大学院

教育学研究科 教育実践専攻

教授 菊地一文氏



秋田県立支援学校天王みどり学園

TEL：018-870-4611 FAX：018-870-4612 E-mail：midori-s@akita-pref.ed.jp

教頭：島津憲司 教育専門監：菅原吉伸 支援部主任：遠藤美和子

特別支援教育地域センター（男鹿市立船川第一小学校内）：月・水・木

TEL：0185-24-3231 FAX：0185-24-3232

特別支援教育アドバイザー：小松美幸

